

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町村受理日	令和2年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=44">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=44</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	令和2年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の状態にもよるが、それぞれのペースで過ごせるような共用空間を整えて、家庭的な雰囲気作り心掛けています。また、行事食・温泉や観光地へのドライブなどを企画して利用者・職員が一緒になって過ごす時間を大切に考え共に今を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員は運営理念を理解し、サービスの中で実践する為に毎月のミーティングで6項目ある理念の中で一項目を選び、具体的な支援に繋がる対応を検討し実践しています。利用者には「やすらぎ」を感じ心地の良い居場所となるよう家庭的な雰囲気を大切に支援に努めています。家族には、毎月の「やすらぎ便り」で利用者の体調・生活の様子等近況報告を行っており、面会が厳しい家族から「便りの中で施設の様子がわかるので助かる」とのアンケートもありました。近隣の小学校や幼稚園の児童が登下校時に庭で散歩している利用者に挨拶や会話(一言ですが)等があり毎日の楽しみになっています。運営推進会議を通して地域との関係構築に努力し、災害時の協力等地域の一員としての活動を行っていきたく法人全体で取り組んでおり、地域貢献に努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有をしているが実践できていない場面がある。	6項目の法人理念があり、月1回のミーティングで理念の実践について話し合っています。朝礼で理念を1項目選び、それに基づく対応を全員で考え実践に繋げるよう努力しています。	理念とは、その事業所が目指すサービスのあり方を端的に示したものです。職員一人ひとりが理念をもとに目的・目標を決め、職員それぞれが利用者へのサービスに尽力し、小さな気付きを報・連・相することで実践に繋がれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶程度で、交流はできていない。	利用者の重度化により、地域との交流が厳しくなる中で、夏祭り(今年は猛暑により中止)運動会の見学・ボランティアによる手品や歌謡ショー等の交流が主です。利用者が地域の一員として暮らししていく為に、地域との関わりを大切に取組んでいます。	地域の中での繋がりや交流の基盤作りの為、運営推進会議や市の窓口で情報を得ながら、地元の活動への参加や交流を深めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	努力している。	会議は行政・地域・家族それぞれの代表と管理者・職員代表メンバーで2ヶ月毎に開催されています。利用者の近況報告や前回の会議で提案された課題結果や地域包括支援センターより問題提起があり参考にしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる	運営推進会議を通じて情報交換を行っている。	主にFAX・メール・運営推進会議で情報交換を行っています。市の担当者や地域包括支援センター職員に相談しアドバイスを頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて勉強会をしており、取り組んでいる。	職員は2~3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し勉強会を行っています。身体拘束になる行為や内容・その弊害について正しく理解し、利用者への言葉掛けの仕方が拘束にならないか検証しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて勉強会をしており、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持っていないため、活用も出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書をお互い見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくとともに、契約後も不具合があれば電話や面会時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けて家族や外部からの意見・要望を受けて反映させるよう努力している。	家族の訪問時の会話や電話連絡の中で把握した事例を要望として捉え、職員で共有し相談しながら解決を図り、家族に伝えています。玄関に意見箱を設置していますが意見・要望の利用頻度は少ないようです。	事業所では「やすらぎ便り」として家族に利用者の日常が発信されており、家族との情報の共有として活かされています。更にこの便りの中で、アンケートを取ったり行事への参加を呼びかける等有効に活用することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング箱を設けて、意見や提案があれば投函し易いようにしている。	職員の意見等は、会議をはじめ・面談の中で把握し、事業所運営に繋げています。ミーティング箱を設置し意見・提案を聞き、運営に可能な限り反映させるようにしています。管理者と職員のコミュニケーションを図る機会を多く取れる環境作りに努めています。	事業体制の変更(ユニット減)に伴う職員の減少等環境が変化中、管理者・職員が事業所本来の姿に戻す努力をしています。定期的な会議や勉強会で意識向上を図り、利用者に向き合っており、今後の取り組みが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があれば掲示板に貼っている。また、経験年数に応じて職員に研修に行くことをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていないので今後、交流に向けて取り組みたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、不安を取り除くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接会って話す機会を数回もち、ご家族の気持ちを引き出せるようにしている。要望の結果や初期の本人の様子はこまめに連絡するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	達成できる喜びの共有ができるものを必要な支援として導入するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の人権を尊重して接するように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者はお客様ではあるが、自分の家族と思いご家族と接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いを引き出して、関係が途切れないように支援に努めている。	馴染みの関係継続の支援の大切さについて職員は理解しており、家族の協力で外出したり、寝たきりの利用者が自宅に帰ったり、友人が面会に来ることもあります。利用者同士や職員との関係も馴染みの関係構築に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人のペースや距離感をみながら、平等に声をかけ接するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援に努めようと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望に副えるように努力している。	それぞれの状態に合わせた支援ができるよう、日々の関わりの中で様子やしぐさ・反応・独り言等から思いや暮らし方の希望を把握するよう努めています。本人本位の生活になるよう支援に心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類から情報収集した後、実際に接して情報を共有し、サービス利用に経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心理状態を把握するように心がけ、残存能力の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの場で、意見を出し合い介護計画に繋げている。	モニタリングやカンファレンスにおいては、家族・職員や医療関係者の意見を取り入れ職員で話し合い、6ヶ月毎の見直しに繋がっています。利用者一人ひとりの介護計画を把握して、それに基づく支援ができていないか確認する為個人記録に介護計画書を添付しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的に個別記録には、残すように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでの暮らしが入所してからも続けられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の近くという立地を活かし、自由に散歩などができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調等をよく観察し診療の際には、必ず職員が対応し様子を伝えるようにしている。	訪問看護師(歯科)やかかりつけ医が、訪問診察しています。バイタル以外の報告は、薬の服用状況や本人の状況の変化があった時は、家族に情報の連絡を取っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に密に報告・相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、施設での生活状況を情報提供するとともに、入院中の状態を把握するために、面会や病院看護職員と話をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やその時の状況に応じて、家族を含めて関係者で会議等を行うよう取り組んでいる。	事業所は、看護師経験者が6人いることで、看取りについての勉強会は特に行っていませんが、入所時に看取りに関する対応について家族と関係者を含めて話し合っています。	スタッフ間の、コミュニケーション方法の改善を図ることも、終末期における急変時の対応等全員で知識を共有できる為、医師への連絡及びマニュアルを再度見直すことも課題の一つと思われれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練も行ったことがないため、実践力も身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っているが、地域との協力体制は築けていない。	消防署立ち合いの下、年一回訓練を行っています。夜間帯や自然災害時の利用者の安全確保を検討する中で、緊急連絡で職員が事業所に集合できる時間をはかる等一つひとつ確認しています。運営推進会議で地域の協力をお願いしています。	避難訓練を行う時に緊急時一斉連絡網を使った集合方法、役割分担等意識を高め災害時に即応できるよう実践力を身に付けることや、訓練の回数(ミニ訓練や机上訓練等)を増やされることと、地域との協力体制の見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉かけや対応には利用者を尊重するように努力している。	言葉かけの際に、利用者がどのように対応した時に良い反応が返ってくるのかを知り、関係性をよく見極めた上での、接し方が出来るよう努めています。	利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの特性の違いを理解しプライバシーを守る為、必要な分野を接遇研修で学ぶ事も有効だと思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、本人の希望を引き出せるような声かけを職員が心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースで過ごすこともあるが、利用者によってはその場の希望に応じた過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれのコーディネートなどするよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は、出来ていない。	味噌汁とごはんは、事業所で作っていますが、配食が主なので一緒に準備や食後の片づけ等は出来ない利用者が多く、おやつ作りとしてカフェ関連の時に好きなものを聞いて提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な支援が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に合わせ、口腔内の清潔保持が行えるよう対応努力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。	意思表示のない利用者も多いですが、各自の排泄パターンや時間を見ながら声かけしています。出来るだけトイレでの排泄・排便ができるよう、余裕を持った言葉かけをして支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、ヨーグルトやオリゴ糖などをとり入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人からの希望で積極的に入浴される方もいるが、希望がなければ職員によって予定を決めさせて頂いている。	入浴を拒否される利用者はいませんが、午前中に入浴して頂き、清潔を保つ目的と楽しめる入浴ができています。重度化した利用者は、二人の職員で気持ちよく安全に入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール内でも和室空間やソファーなどを活用し、時間帯など制限なく休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を申し送るとともに症状の変化などがあつたら記録し、薬の内容については掲示して確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めているが、良い方法がまだ見つからない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした、外出や散歩はできているが、地域の人々との協力は得ることはできていない。	天気の良い日は、庭や周辺を職員と一緒に散歩しています。本人の希望や家族による温泉へのドライブ等もあり、気分転換と運動を兼ねて、外に出てもらうよう支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の管理ができる方が現在はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、対象者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つように心がけ、ホール内では和室空間やテレビ・DVD・音楽などを活用し居心地の良い空間作りを行っている。	利用者の作った手作りの作品(貼り絵)や、好きなレコードジャケットなどを飾り、季節の行事の絵や、唄も楽しんでもらえるように見やすい位置に貼っています。利用者の安全に配慮して、危険のないよう配置物に工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭でもテーブルや椅子を配置し、個々の気分で利用できるような工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者によっては、本人と相談しながら居心地のよい居室作りができています。	家族も含め、利用者が今まで家で使っていた馴染みの物を自由に持ってきて頂き、居心地の良い居室作りをしています。新しい環境に早く慣れてもらえるよう、リクライニングソファ等、大きな物も可能な限り利用者の希望に沿えるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インシデント報告であげられたものを活用し、検討した上で安全な環境づくりに心掛けている。		